

いま改めて考えよう地層処分
～科学的特性マップの提示に向けて～



地層処分事業の関わりと学び

2017年6月11日

公益社団法人 NACS消費生活研究所 主任研究員 浅野智恵美

NACS-Nippon Association of Consumer Specialists 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

これまでの関わりと学びー1



2008年3月1日:瑞浪

1. 高レベル放射性廃棄物の処分方法に関する意見交換会、ファシリテーター
2007年12月2日、名古屋「共に語ろう電気のごみ～もう無関心ではいけない」
* これまでに日本全国で約100回開催された地域ワークショップの第1回目
2. 2007年度全国ファシリテーター相互交流、意見交換会に出席
2008年3月1～2日、東濃地科学センター 瑞浪超深地層研究所(見学含む)
* 名古屋、福島、福岡、松山、札幌で開かれたワークショップのまとめ
3. 地層処分における情報提供に関する意見交換会に出席
2009年1月8日 名古屋
4. ファシリテータースキルアップ研修に参加
2010年7月10日～11日、科学技術館、東京電力渋谷支社、電力館
5. オピニオンリーダーのための熟議型ワークショップに参加
2012年9月29日、東京大学工学部
* 2012年10月～2015年4月、米国に在住



2008年3月2日:瑞浪

これまでの関わりと学びー2

6. ファシリテーターを対象とした意見交換会に出席
2016年9月3日、原子力発電環境整備機構
7. 地層処分意見交換会 in 名古屋に参加 *概要説明後、テーブルディスカッション
2016年11月5日、名古屋プライムセントラルタワー
8. 幌延深地層研究センターの見学と学習会に参加
2016年12月22日、幌延深地層研究センターおよび国際交流施設
* 地層処分事業の理解促進のための学習の機会提供事業を活用
9. 地層処分事業の理解促進のための学習の機会提供事業交流会に参加
2017年2月18日、コンベンションホールAP浜松町
10. 平成28年度 高レベル放射性廃棄物に関する
理解促進・支援事業地域リーダー交流会に出席
2017年2月25日、品川カンファレンスセンター



幌延深地層研究センターの見学



日時：2016年12月22日 午前

場所：幌延深地層研究センター坑道内、ゆめ地層館

参加者：ライフ&エナジー（消費生活とエネルギーを中心に学ぶ6名）

概要：地層処分事業の理解促進のための学習の機会提供事業を活用

感想：専用つなぎを着用し、ヘルメットを被り、地下350mの坑内などを見学。

日本は最終処分場として使用しない場所で技術を磨くため、2ヶ所の研究施設で地上、坑道掘削時、地下350mなどで調査研究が行われている。

瑞浪超深地層研究所は花崗岩。掘りにくいが硬い岩盤。幌延深地層研究所は泥岩。掘りやすいがコンクリートで覆う必要がある。

地下水対応、メタンガスの安全対策、地域住民との約束・交流の様子など、現場の取組から多くを学ぶことができた。

地層処分は広大な敷地が必要。技術と知見を継承していく重要性を認識した。



地層処分に関する学習会に参加

日時：2016年12月22日 午後

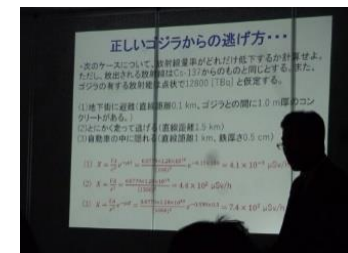
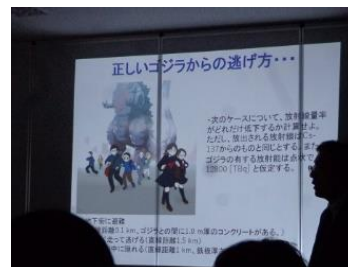
場所：国際交流施設(幌延町)

講師：北海道大学大学院工学研究院 小崎完教授

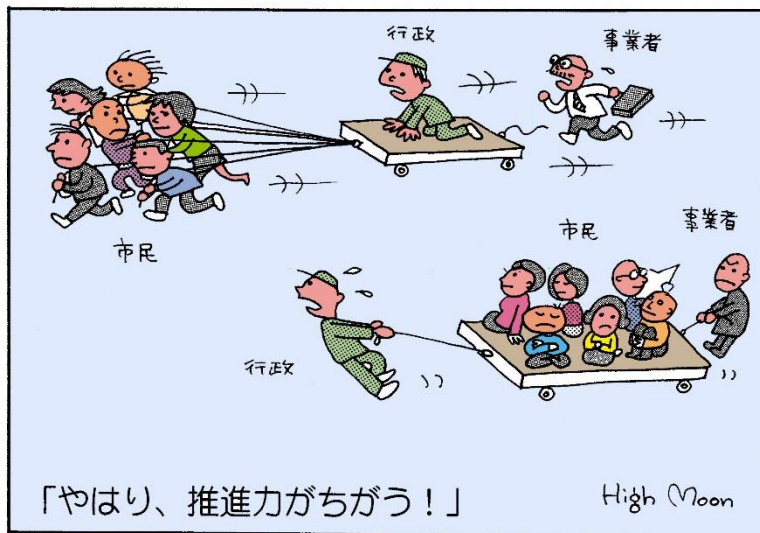
演題：高レベル放射性廃棄物の地層処分について

- ・地層処分の概念
- ・わが国の地層処分の技術的成立性
- ・安全評価の考え方 など

感想：地層処分事業は最終処分場の選定、決定を経て建設、廃棄物の搬入に至るまで、100年以上の長期にわたる。おそらく現世代で最終処分場の完成を見届けることは難しい。世代間の倫理公平性、処分事業と地域共生のあり方など、将来世代のために一人ひとりがこの問題から目を逸らすことなく、自分事として考えていく重要性に気づかされた。



地層処分事業の推進に向けて



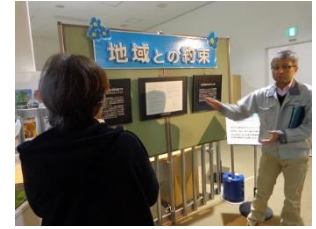
作者注：情報公開なしにパートナーシップを組むことはおぼろしい。 (漫画ゴミック「脱賣物」2000.7)

高月 紘：京都大学名誉教授、京(みやこ)エコロジーセンター館長

国、NUMO等が推進しようとしても、国民が自分事として関心を持ち意識を変えなければ、地層処分事業は進まない。

次の世代の人々のために、環境を保全し継承することは、私たちの義務

科学的特性マップの提示に向けて



2016年12月22日: 幌延ゆめ地層館

- 当初使われていた「科学的有望地」の名称ではマップが公表された際、該当地域に塗り分けされた住民が戦々恐々となり、ハチの巣を突いたような状態が懸念される。
- 特定地域名が公表・指定されると誤解している人もいた。科学的特性マップの方が適切な表現と考える。
- いつ、科学的特性マップは公表されるのか？
(この10年、地層処分事業が大きく前進したという実感がない)
- 沿岸海底域での地層処分の有り方について、詳しく知りたい。
- 科学的有望地のマップが示されたからといって、科学的観点のみで処分地を決めることには賛成できない。
- 地域との共生をどのように図っていくのか、対応方法を示してほしい。

今後に向けての課題と疑問



- 処分地を決めることは重要かつ非常に難しい課題。将来世代に責任が発生することを鑑みると、先延ばししてはいけない。その余裕はない。
- 地上に高レベル放射性廃棄物を置いておくリスクも恐い。
- すでに発生している廃棄物を現世代で解決するため、問題の重要性を国民全体が十分理解し、関心を持つ必要がある。
- 地層処分事業は日常の暮らしから非常に遠い課題であり、他人事と思っている人が多い。
- マップの提示を機に現存する課題を学び、自分事として捉えるエネルギー環境教育を推進する必要がある。「知らなかった」では間に合わなくなる?!
- 受入地域のメリット、デメリットとは？
- 海外の先行事例を国民全体に判りやすく示すことも重要。
- 安全・安心な暮らしを保ちつつ、地層処分事業をどう進めていくのか？
- 原子力を取り巻く技術用語は難しい。安全性を判りやすく示し、地道に伝えてほしい。
- 信頼できる事業者組織、国の体制であって欲しい。